

# 1. 調査報告概要表

作成日 平成20年3月25日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4770400309		
法人名	医療法人 一灯の会		
事業所名	グループホーム月桃		
所在地	沖縄市知花5-24-18	(電話)	098-934-1932

評価機関名	沖縄県社会福祉協議会		
所在地	沖縄県那覇市首里石嶺町4-373-1		
訪問調査日	平成20年3月25日		

## 【情報提供票より】(H19年11月15日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 14年 年 4 月 1 日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	9 常勤 8 人, 非常勤 1 人, 常勤換算 8

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り	
	1 階建ての	1 階 ~ 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	水道光熱費6000 円	
敷金	有( 円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	350 円
	夕食	300 円	おやつ	円
または1日当たり 円				

### (4) 利用者の概要(11月15日現在)

利用者人数	9 名	男性	4 名	女性	5 名
要介護1	1 名	要介護2	3 名		
要介護3	4 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85 歳	最低	75 歳	最高	92 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	沖縄中央病院・中部徳洲会病院・たけしま歯科
---------	-----------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームは、知花城趾の近くにあり、手入れの行き届いた生け垣と広々とした中庭などで緑に包まれている。隣接する母体医療法人と連携が円滑に行われており、医療面や緊急体制などの応援体制が得られている。管理者と職員は信頼関係を基にして、利用者を中心に穏やかな雰囲気づくりを心がけている。地域との関わりに力を入れ、理解して貰うよう、ラジオ番組の収録や講演など啓蒙に取り組んでいる。今後、更に、地域への参加交流を検討しており、期待が持てる。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の課題であった事業所近くのカーブミラー設置は改善されていた。優先順位をつけてひとつずつ前向きに取り組んでいる様子が伺えた。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は職員全員で取り組んだ。それぞれの見方、考え方のブレなど徹底的に話し合い、管理者を交えて決定した。自己評価をすることで、日々のケアの見直しや気づき、客観的に見る機会を得ることができた。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議メンバーの提案を取り入れて地域めぐりを実行したり、地区自治会長を招くなど、新たな参加が得られた。地域包括支援センターの参加によって、行事の情報や市との連携が円滑に進められている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	できるだけ多くの機会を捉えて家族へ積極的に話しかけ、利用者の介護の参考にしている。これからは家族の立場を理解し、不満や苦情について言いやすい雰囲気を作り、どんな意見でもホームの改善につなげられるよう努力する意向である。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	これまでは外部の人にホームに来て貰っていたが、これからは地域の一員として出向くようにしていきたい。そのために様々な情報を入手し、これらを参考に利用者に適した行事等を選択し、参加の機会を増やしていくことによって地域との幅広いかかわりを築いていきたい。

## 2. 調査報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「安心と尊厳のある生活を実現するよう努めます」、「利用者が地域社会の一員として地域と関わりある生活が送れるよう支援する」など6つからなる理念が掲げられ、入居者ひとりひとりに寄りそい尊重する姿勢に徹している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は外来者用と職員用の2つが掲示されており、職員は毎日の生活の中で理念を念頭に置いて自覚と意識を高め合いながら実践に取り組んでいる。理念は毎朝詠みあげられ、サービスの実践に確実に活かしている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	母体法人のイベントのみならず近隣保育園、自治会、老人会など地域活動に積極的に参加している。より身近な隣近所にも会釈や会話から交流の輪が広がっている。	○	地元の行事の情報把握等、積極的にかかわり、自治会との連絡を密にして、地域付き合いが自然体で行えるように期待したい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価表は全員参加で作成した。各職員で書いて後お互いの捉え方のブレを徹底的に話し合い、その後管理者と検討会を持ち作成した。自己評価を実施したことで、日々のケアのチェックを客観性を持って捉えることが出来た。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回定期的で開催している。意見が活発に出る双方向の会議になっており、メンバーから提案された1つである「地域めぐり」を実践した。	○	多彩な顔ぶれのメンバーなので其れを活用してますます幅の広い地域交流に持っていきけることを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市町村へは指示を仰いだり、情報交換等で積極的に足を運んでいる。地域包括センターの職員が運営推進会議メンバーであり情報の収集や助言を受け、その人を窓口にして連絡が取れる関係である。</p>	○	<p>ホームの役割と市町村の接点を確認しつつ、市町村の動向や事業計画を把握し、積極的参加や協力など、さらなる連携を図る工夫を期待したい。</p>
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族が知りたい情報を確実に届けられているか、家族への報告にムラはないか等心配りを怠らない。日常消耗品などが切れたときの連絡も見直しをして、一人の責任者が報告や連絡をするように努力している。</p>		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情に関する意見箱を設置しているがまだ利用がない。家族が気軽に意見不満を言えるよう、アンケートなどの活用、茶話会などで気軽に話が出来るような雰囲気づくりをしている。</p>		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の離職による利用者への影響は今のところ見受けられない。新たな利用者、あるいは表現できない利用者への心配りを忘れず、利用者とは付かず離れずの良好な関係を維持できるよう気遣いのあるサービスを心がけるようにしている。</p>		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>管理者は職員の資格アップに前向きであり、情報や取得方法など親身になって相談に乗っている。</p>		
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>県のグループホーム連絡協議会に加入しており、職員間の意見交換や勉強会、ホーム見学など率先して関与している。また管理者は当定期総会において過去2回の事例報告や、意見発表を行った。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族から本人の様子を詳細に聞き取り、安心と安全を確認しながらケアしている。利用者の全体像を知り、その人に合ったやり方を心がける。ときに職員よりも利用者どうしのコミュニケーションで早く溶け込むことがある。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者の生活歴を把握しており、それぞれに合った言葉かけをしている。昔の暮らしや習慣、陰暦、方言や言い伝え、教え、座右の銘など学ぶことが多い。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個人の想いは、利用者からの把握が困難な場合もあるので、基本的には家庭でやっていることをやらせてもらう。職員は常にその人の思いを理解するよう小さな気づきでも職員間で共有して本人本位の暮らしになるよう努力している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の身体状況や希望、家族の希望なども取り入れ、母体病院との連携を密にして総合的な話し合いのもと介護計画を立てている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護支援専門員でもある管理者は毎日のかかわりの中でその人の行動等を受けとめており、職員と課題点を話し合い、家族の来訪時に話し合いを持って柔軟な介護プランを作成している。大きな変化があるときは計画を立てなおしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	盆正月の外泊のみならず、普段の外泊希望にも積極的な支援をしている。本人と家族の希望で、親しくしている利用者連れて家庭訪問をしたこともある。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所するための診察段階で大体が法人病院の医師がかかりつけ医となる。薬の受け取り、ホームでの状況説明が的確に伝わるので利用者や家族は安心しているようだ。また馴染みのかかりつけ医を希望する時でも状況説明を確実にし、場合によっては同行支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合、隣接する母体病院と関わることになる。これが母体法人の方針であるため、終末期にむけた具体的な体制は今のところ考えていない。	○	確実に訪れるその日の心の備えとして、家族の希望や、職員の研修など、この項目の持つ意義や意味合いを職員間で話し合えるよう学習を怠らないよう期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日頃の言葉使いや表情による表現などでその人の誇りを損ねないよう、馴染みの中にも基本的な礼儀はしっかり守っている。聞き取りに利用する小さいメモでもシュレッダーにかけている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	家族の協力を得てその人らしい暮らしや尊厳を大事にしている。特に余暇活動に於いてその人らしさが積極的になるよう働きかけている。書道、新聞の読み聞かせ、出身地に関する記事を見つけて読むなど、さりげなく寄り添って支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	朝夕の食事は職員と利用者が協力して作る。昼食は母体施設から運ばれてくるが、受身的にならず、利用者も取りに行く、食器によそう等できることは積極的にしてもらっている。食後は直ぐ片付けることをせず、笑顔のある食後の団欒を長く持っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回の入浴日は利用者にとって生活リズムに刻まれており、違和感なく入浴してもらっている。体調変化による変更、清拭や足浴、希望する曜日など柔軟対応をこころがけている。	○	職員の勤務体制の見直しや同姓介護など、利用者中心のケアに持っていけるよう課題としての意識を持ち続けることを期待したい。
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は利用者各々の楽しみごとを把握しており、やる気を高める為の工夫を怠らない。三線好きの利用者に調弦を依頼したり、コースター作り、チラシの工作、調理手伝い、畑作業など本人の持っている力が発揮できるよう寄りそっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩がてらグアバやバナナの収穫を楽しんだり、ティータイムにはホーム内の茶屋でお茶を楽しんでいる。週1回のドライブは希望する場所を聞き入れ、近くを希望する人(車酔いとか車イス利用者)には近場で対応して外気に触れる機会を作っている。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけていない。出入り自由だが、一般家庭でも使用されているような開けると音の出るセンサーを取り付けてある。	○	センサーがあっても常日頃から利用者や玄関への目配りは備えてほしい。いずれはセンサー無しでのケアも目標にかかげて欲しい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	非常災害対策訓練は年2回行われており対策マニュアルが母体施設を中心に確立されている。ホーム内においては、火元の場所を想定した誘導する動線、順番等協力応援者に直ぐ説明できるような手順書を作っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスや必要カロリー、摂取量のチェック、水分確保の観察などを毎日記録している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は広く、ラジオの音も調節し、間接照明がなされている。部屋ではテレビをくつろいで見られる柔らかいソファとテーブルが、くの字型に設えてあり雑誌なども気軽に見られるよう多種準備されている。六角形の畳の間は隅が無くどの位置からも座れ、主賓の感覚を抱かせる工夫がある。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は基準より広めとなっており、予め設えてあるタンスや使い勝手のいい長テーブルのほか、各自が自由に持ち込んだ物品に囲まれて暮らしている。ある部屋の入り口には好みの歌詞があり、本人の迷い防止の目印になっている。		